

モノづくりの達成感

派遣社員から正社員に

光を求めて

数時間かけて焼結炉内を望素で満たし、ヒータ

ーで高温に加熱する。そのタイミングを計るのは設楽匠さん(32)の担当だ。焼き固められたベアリングボールなどの製品が炉から出てくると、モノづくりの実感がわく。製造業が集積する川崎市川崎区。鉄より軽く丈夫で、セラミックスより安価な新素材を開発したベンチャー企業「イスマンジェイ」で、設楽さんは09年11月下旬、1年間の派遣期間を終え、正社員になった。新素材を焼き固めて製品を作る炉の操作を担う。

「手に実感があることをしたい」と漠然と思うだけだった20代の長いトンネルを抜け、考えたこともなかった製造業で働き非正規雇用の派遣社員から正社員に。やりがいを感じている今、「昔の自分が一歩踏み出していたら、違う人生になっていたかもしれない」とふと思うのは、ここまで来るきっかけになった「一歩」の大切さを実感しているからだ。

◇ ◇
大学時代は真内などで一人暮らしをして、芸術学部で好きな映像を学んだ。講義も実習もまじめに取り組んだが達成感がない。「このまま大学を出て就職しても、納得した人生を送れないだろうな」。そんな物足りなさから、卒業間近の4年生の終わりに大学を辞めた。友人には「もったいない」と言われた。

中退後は静岡市の実家に戻り、アルバイト生活を始めた。文房具店やレンタルビデオ店で9年間。食いはぐれることはないが美家住まいで「何とかかなるだろう」と焦りはなかった。もちろん「就職したい」という気持ちはあった。ただ頭で考えているだけでは、自分の進みたい道が分からない。次の「一歩」を、どこへ、どう踏み出せばいいのか…

実家を離れ08年7月、恋人のいる横浜市に引っ越したのが転機になった。仕事を探していた8月末、NP

次の「一歩」へ、まず行動

○法人「ユースポート横浜」の就職支援施設(横浜市西区)で、中小企業を紹介するセミナーに参加した。彼の勧めで訪れた施設でチラシを手にしていた。そのセミナーで、中小製造業への人材育成派遣をする会社「きりの」(川崎市川崎区)社長の堀安吉さん(37)と出会う。

セミナー会場に持ち込まれた卓上旋盤で金属の棒を削ってみると面白そうだった。「まずは来て、実際にやってみよう」。ものづくりを体験できる制度を紹介する堀安さんに誘われて、「続けられるかどうか行ってみないと分からない」と思い、きりのでの旋盤加工の1日体験に参加した。大小の機械がひしめく現場。金属と旋盤の刃があたる感触がタ

イレクトに手に伝わってくる。面白い。きりので2、3カ月研修すると、やればやるほど金属を削る作業の腕は上がった。小型の次は大型の旋盤だ。製造業で働きたいという気持ちが芽生えていた。

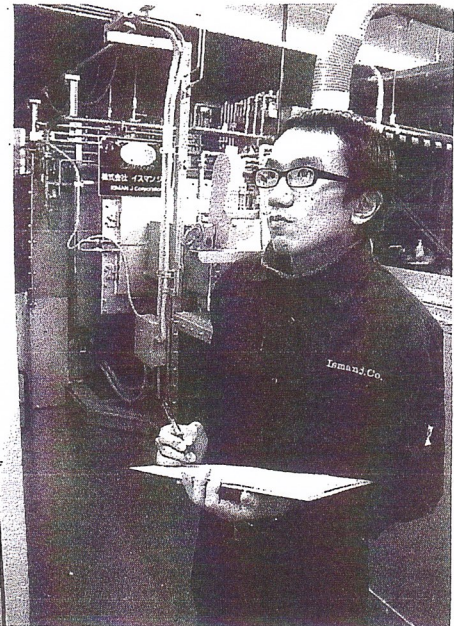
その思いは堀安さんにも通じる。「物静かでひ弱な青年」という第一印象だった設楽さんが、休まずにコツコツと集中して作業する姿に「ガッツが出てきた」と感じていた。「生懸命やる人ならいい。手が器用でも手を抜く人はダメ」。そんな人材を求めていたイスマンジェイに、ぴったりだった。

◇ ◇
不況や高齢化の波が押し寄せる中小企業。製造業の現場では、初めて扱う特

殊な機械が多い。知識よりも正確に仕事をこなす人間性を重視する理由だ。若者の就労支援に携わって約8年になるユースポート理事長の岩永牧人さん(33)は「人を育てる力のある企業が減っている」と危惧する。相談者には「コミュニケーションの苦手な若者もいる。多くはすぐに働ける状態ではない。まずユースポートが相談を受け、きりへつないで育成し、企業へ派遣し正社員になる。失敗すれば戻ってきてもいい」。

やり直してできる輪を作った岩永さんは「きりののように、若い人を育てていく」という企業とのつながりを増やしたい」という。

「派遣切り」が社会問題化していた08年11月、設楽さんは男性2人と共にイスマンジェイに派遣され、1年後3人そろって正社員になった。堀安さんは「1年たてば(きりののことを)そんな会社があったなと思ってくれればいい」と喜ぶ一方、「数年後には会社の中心を担う人材に育ってほしい」と願う。



知識や技術もまだ足りないと気を引き締める

20代の自分と同じような人には「行動してみると違う景色が見えてくるとアドバイスしたい」と設楽さん。入ったばかりの後輩に、分かりやすく仕事の手順を教えるのが今の目標だ。

【杉登水脈、写真】